



外国語は少しずつかじるのが正解かもしれない

Nature News Service 2001.03.15.

よく、外国語を学ぶにはその国で生活するのが近道のように思われますが、最新の科学的な研究結果によると、新しい言語を習得する一番良い方法は、異国の文化の中にどっぷりと浸かりこむより、家にいて少しずつ細切れにして取り込むことなのかもしれないということがわかってきました。

大人を使って研究されたこの結果¹は、子供が言語を学習するときのやり方を反映しているのかも知れないと、研究者は考えています。子供では言語を学習する能力が限られているために話を細切れにせざるを得ないから、大人よりも言語を習い覚えるのが容易になるのだらうと推測しています。

研究者らは架空の惑星「ベトルージ」を想像し、その星の言語を作り、学生にそれを使うことを教えてみました。ベトルージ語は、この惑星の住民の外見、動作の仕方、動作の方向について、とり得る2つの選択肢を記述する6つの語だけで成り立っています。学生たちに、ベトルージの生活の様子を描いたコンピューター・アニメーションを見ながら、それを3つの単語からなる文章で説明したものを聞かせました。

数人の学生には、実験の間ずっと完全なベトルージ語の文章を聞かせ、それ以外の学生には、実験の最初の3分の1の間は1つのベトルージ語の単語だけを聞き、それから2番目の語が付け加えられ、完全な文章が聞かされたのは実験の最後の3分の1の間だけとしました。

それから、別のアニメーションについてテストが行われ、アニメーションと共に、2種類のベトルージ語の文章を見せ、どちらがアニメーションの内容を正確に表現しているかを学生たちに判定してもらったところ、ベトルージ語を単語一つずつを順番に覚えた学生の方が、言語とアニメーションの内容をうまく組み合わせることができたのだそうです。

子供たちは、最初から言語というプールのいわば深い方へと放り込まれ、頭までどっぷりとその言語に浸かってしまうわけですが、複数の言語を同時に学習するのに何の障害も感じていないように見えます。大人はどうしても、自分の限られた知識で会話全体を把握しようと試みますが、話のなかの一部だけしか把握できな子供たちは、大人がするように、文章全体を1つの意味に結びつけることよりも、言語の単位である個々の語の意味を学ぶのを楽しんでいるのかも知れないといわれています。このような限られた数の単語を結合し直して新しい表現を作ること、子供らにとってはより容易なのだと思います。

オランダのナイメーヘンにあるマックスプランク心理言語学研究所で言語習得についての研究を行っている Wolfgang Klein は、大人が言語学習に苦勞するのは学習技能が概して劣っていることと、子供に比べて学習意欲が低いためだらうと推論している。ヨーロッパの移住労働者に関する研究を行なった結果として、彼もまた、新しい言語を習い覚える最も効率的な方法は、おそらく集中訓練と授業を混合した方式であらうと考えている。しかし、彼は、これがどこでもいつでもベストというわけではないとも付け加えている。

¹ フロリダ・アトランティック大学の心理学者である Alan Kersten と Julie Earles